



丸木美術館

8月17日（月）

8月15日（土）NHK 総合・おはよう日本で「戦後75年・原爆の図が伝える“あの日”の記憶」という特集が放送されました。「原爆の図」は、広島・長崎の被爆の実体験をもとに描かれた全15部からなる連作で、広島出身の日本画家・丸木位里と妻の油彩画家・俊によって描かれ、埼玉県東松山市にある丸木美術館に展示されています。位里は原爆で叔父と姪、父親を亡くしています。終戦から5年後に発表されて依頼、多くの人々に強烈なメッセージを伝え続けていますが、近年は年を追うごとに入館者の数が減少していることに加え、今年は新型コロナウイルス感染症により2か月に渡る休館を余儀なくされ、存続が危ぶまれているようです。こうした中、次々と応援のメッセージや寄付金が寄せられ、とりあえず今年度の存続はできるそうです。

この絵のことは以前から知っていましたが、全体を見るのは今回が初めてです。改めて日本の歴史や平和について考えさせられました。収蔵されている作品は他にもあり、いずれも鑑賞するために多くのエネルギーを必要とすると思うため、美術館の外観のみ紹介します。

